

国立がん研究センター東病院 認定看護師教育課程
(がん放射線療法看護分野)

過去入学試験問題（客観問題）一部

開示期間：2025 年 10 月 31 日（金）～11 月 7 日（金）

【問】 がんの発生と予防に関して、正しいものを一つ選びなさい。

1. 国立がん研究センターをはじめとする研究グループは、「科学的根拠に基づくがんリスク評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究」で、日本人のがん予防のために改善可能な生活習慣は「禁煙」「節酒」「食生活」「身体活動」「適正体重の維持」の5つのみとして、「感染症の検査を受ける」ことは含まれていない。
2. 日本人のがんの原因として、女性で3番、男性でも4番目に多いのが「感染」である。
3. 日本人を対象とした研究から、たばこを吸う人は吸わない人に比べて、何らかのがんになるリスクが約3倍高まることが分かっている。
4. 国立がん研究センターの研究報告によると、がんの部位別では、男性では大腸がん、女性では肺がんにおいて、身体活動量が高い人ほどリスクが低下した。
5. 国立がん研究センターでは、生活習慣とがんやほかの病気の罹患についての追跡調査を実施した。その結果、「禁煙」「節酒」「食生活」「身体活動」「適正体重の維持」5つの健康習慣を実践する人は、0または1つ実践する人に比べ、男性で43%、女性で37%がんになるリスクが低くなるという推計が示された。

【問】 腫瘍マーカーと疾患について、正しいものを一つ選びなさい。

1. CEA は、主に肺、食道などの扁平上皮がんで上昇する。
2. CA19-9 は、主に胃がん、大腸がん、肝臓がん、胆道がん、膵臓がんなどで上昇する。
3. SCC は、主に食道、肺、子宮などの腺がんで上昇する。
4. CA125 は、主に乳がん、胃がん、大腸がんで上昇する。

【問】 フィジカルアセスメントについて、誤っているものを1つ選びなさい。

1. 胸部の断続性副雑音（断続性ラ音）には、水泡音、捻髪音がある。
2. 腹部のフィジカルイグザミネーションの順序は、視診→触診→打診→聴診である。
3. 筋性防御の症状は、腹腔内の炎症が腹膜に及ばないときには現れない。
4. 障害部位と視野欠損は、上下左右逆転する。

【問】 がんゲノム医療について正しいものを1つ選びなさい。

1. がんゲノム医療拠点病院は、全国で13か所指定されている。
2. がん遺伝子パネル検査は患者が希望すればどの病期においても保険診療で受けることができる。
3. 2019年10月末時点で、がん遺伝子パネル検査を受けた患者のうち、同検査が治療に結びついた患者さんの割合は、10%程度と報告されている。
4. がん遺伝子パネル検査において、遺伝性腫瘍であることやその可能性について分かることはない。

【問】 下腹部へ放射線療法を受ける患者の粘膜炎症状に対する看護について誤っているものを1つ選びなさい。

1. 膀胱炎症状の緩和のために、治療前の一定時間膀胱内に蓄尿することを説明する。
2. 毎日同じ時間帯に排便が得られるよう、患者の生活習慣を確認しながら方策を検討する。
3. 20Gy程度から下痢症状が出現する可能性があるため、水分摂取の必要性を説明する。
4. 治療後半は尿意や便意が頻回となる可能性があることを説明し、通院手段や所要時間、トイレの設置場所などを患者とともに確認する。
5. 治療終了後に直腸出血を生じた場合は難治性であるため、早めに受診されるよう説明する。

【問】 放射線治療による正常組織の反応について正しいものを1つ選びなさい。

1. 急性反応は一時的に大量の放射線を受けると、部位や線量によって異なった症状が現れ、照射終了後に一定期間を経ても改善しないことが多い。
2. 反応の標的は、主に、放射線感受性の高い恒常的細胞再生系（皮膚・腸上皮、脊髄、粘膜、生殖線）である。
3. 腹部照射2～3時間後に出現する嘔気や嘔吐、照射に起因する急性炎症や血管の透過性亢進は、照射によって生成されるラジカルによるものである。
4. 視交叉に50Gy以上照射されると視力や視野障害の可能性が出現する。

※一部改変